



勝手に新春新企画

レーザー鬼火焚き

失敗

昨年発刊した鬼火焚きの新聞の「鬼火焚きの炎のピーク時間は三分。アナ雪(Let it go)の最後のサビの手前までの時間とほぼ同じ」という文面を覚えていた方はほとんどいないだろうが、これを証明というか検証するために実行してみた。曲を流すだけでは物足りないのでレーザービームを飛ばし、田代オリジナルの鬼火焚きを実現しようという試みである。火をつけると煙がありえないほどモクモクと上がる。「よいしいける!」そう確信しレーザービームオン! 「あれ?」レーザーが見えない。角度を変えたりパターンを

「疑惑のレリゴ-」の疑惑晴らせず 変えたりしたが変化無し。燃えカスが大量に降り注ぎ、音響機材に襲いかかる。慌てて機材をバッグに収め計画は大失敗に終わった。レーザービームが鬼火焚きの環境にそぐわない事がわかったが、何がどう影響していたのかは全くわからない。いろいろと勉強はしているが本当にわからない。人生の中で今のところ一番わからないのはレーザービームであり「ビームマン」と呼ばれるようになるまでの道はとてつもなく長いと感じた。しかしこの失敗が鬼火焚きに及ぼした悪影響はゼロであり、通常の鬼火焚きとしては大成功に終わったから良しとしよう。



鬼火焚き最低でもザクの足のサイズ ジョングに脚がない件についてはこれまで散々紙面でお伝えしてきた。そこを指せなくなってきた今、彼らが大きな目標を掲げるとすれば「ゲルググの脚」である。しかしこの中にゲルググを存じ上げている民がいるのだろうか? そんな民にゲルググを見せたとして、ザクとゲルググの足のサイズ感を短期間でインプットさせるには無理がある。だから今回もザクのサイズで落ち着いた。来年は目標を少しだけ上げる意味で「ドムの脚」を指そう。

12.29 鬼火焚き準備作業 青いツナギはやめておけ



青いツナギを着るなど言っているわけではない。こんな日に色で目立てば作業をサボるとすぐバレるからずつと頑張らないといけけない。案の定、竹を次々と渡されてトラック荷台のわずかな空きスペースで身動きがとれなくなり助けを求めていた。しかし後半は荷台に乗る事を自然とやめ(私には不自然に見えたが)、何もしていない時間のほうが目立っていた。目立っていた理由としてはツナギが青かったから。来年は白いツナギで来るとよい。たぶん目立つだろう。

大概はフォトショップで誤魔化せる。美肌もグルメ雑誌のライメンの湯気もこの世は加工だらけである。このソフトを千年以上も使い続けられればわかる事実。騙されるな。

Ps

Photo shop



こうなるつもりだった。。。

笑う軽トラ女子



今年4月、この中の誰かが「ミス軽トラ」に選ばれるなんて事は絶対ない。

軽トラの荷台に乗れば、通常の2.5倍の笑いが起る。キャグをかますなら絶対に軽トラの荷台だ。

前作、田代ラップを超えた自信作 2020年1月5日 完成 田代ラップII 田代はこれ1本あればしばらくたかえます。